

# 市長は単なる政治家でなく 市民の良識の代表だ

題の混乱は、市民が生命をかけて拡張を阻止しようとしていたので、市長が出ても混乱はあった。舟入団地は現在進行しているのでいふことはない」と、課長会で見解を述べています。

「議会解散か」「市長退陣か」――。

九月市議会で不信任をつきつけられた杉本市長は十月

六日、市職員を前に「私が政治家であれば解散したが、市民の良識の代表であり、いさぎよく南国市長の座を去る」所信表明があり、十一日をもって自動的に市長の職を去ることを明らかにした。

「議会解散権を行使せず

「低次元の市議会」と批判

杉本市長は十月一日、市議選の始まる直前、市議会から不信任をつきつけられ、議会を解散するか十一日までまって自動的に市長の職を失うか注目されていました。が、十月六日「健康状態」を理由に退陣することを明らかにしました。

杉本革新市長は昭和四十八年十二月、社会党・共産党・地区労で構成する「明るい南国民主市政をつくる会」を推せん母体に立候補

現職で三期目をめざす金堂前市長に三千票余りの大差をつけて当選した。『すべての市民がほんとうの主人公となる新しい都市づくり』を政治姿勢に、聴く市政・話す市政、そして、それに応える市政をスローガンとして市長への手紙、市民と市長の対話集会、市政モニターリング制度、市民相談室の設置など、ユニークな「市民参加」の都市づくりに取り組んでいた矢先、一年九ヵ月にして、革新市政はもう

不信任は非常識な陰謀

それによりますと「不信任は不當で非常識な陰謀であることは誰の目にも明らかだ」と、しながら「何よりも残念なことは、日本に例のない恥しいことであり、いかに市議会が次元の低いものであるかを天下に知らした」と、猛烈に市議会を批判。日ごろ温厚な人柄で評判の杉本市長と思われないばかりを表明しました。

不信任の理由とされた三つのことについては「十市の市有地の専決処分については、黒い霧で攻撃された金堂前市長に追いつかれてムチをあたるのはほんのびないので赤字を表面に出さないようにした。どんなにたたかれても良心的にいたむところはない。空港問題

退陣は健康上の理由

不信任に対抗する手段としては議会解散の道がありますが、それで行なわるのは「健康上の理由」としているものの、すでに市議選も始まっています。「解散して泥仕合をするよりも一日も早く市政の正常化をし、市・市議会・市民が一丸となって財政危機の突破を」というのが真相のようです。

また、市職員へのあいさつでは、その真相について具体的にふれ市長は単なる行政マンではなく、単なる政治家でもなく、市民の良識の代表だ。私が政治家であれば解散しただろう。私は市長であつて政治家ではない。市長は常に市民の良識の代表でなければならない」。

もともと少数与党（三十人のうち与党四人）で船出した杉本革新市長ではないながら、市長選の深い二回りや推進母体の社会党と共にいたむところはない。空港問題

# 全国初の「市長退陣」

## 議会解散権を行使せず

市民のみなさんへ

南国市長

杉本恒雄

すでにご承知のとおり、私は今議会において不信任をうけました。これがいかに不当で、非常識な陰謀によるものであるかといふことは誰の目にもあきらかであります。何よりも残念なのは日本にも例のない恥しいことであり、いかに南国市議会が次元の低いかということを天下に知らせたということあります。

この不信任に対してただちに議会解散をもって応ずるのが政治の常道であることは私も十分に承知しておりますが、私の体は医者の診断によれば相当に長期の治療を要する状態にあり、解散をしてもその後の期間市長としての勤務ができない現状であります。

また、現在選挙は進行しておりますのでこれを途中でストップすることは、私を不信任した人たちに対する多少の打撃にはなるかも知れませんが、私が市長として考えることは解散して泥仕合を始めることではなく一日も早く正常な南国市に返し、市制始まつて以来の危機的財政状態を打開するために議会も執行部も、市民も一丸となって努力するということであります。

個人的には、私も極めて残念な思いが残りますが、大抵に立って議会解散を断念し静かに身を引いて、これからは一市民として南国市のために尽したいと思います。

一日も早く市議会選挙を終り更によい市長を迎えて田園文化都市としての誇り高い南国市の創造に励進されんことを祈念してやみません。

革新市政

1年9ヶ月で崩壊



市長は単なる政治家ではなく、市民の良識の代表だ。いさぎよく市長の座を去ると、市職員を前に退陣を語る杉本市長（10月6日市役所大会議室で）

とりまく状況は大変きびしいものがあり、市民のなかにも「市政のことは市長や市議員にすべておまかせ」といった自治意識の低さもあって、市長のいう「市民の論理」が十分理解できていないことも、全国で例のない「市長退陣」を生んだといえそうです。

田園都市づくりに情熱

市長は単なる政治家ではなく、市民の良識の代表だ。いさぎよく市長の座を去ると、市職員を前に退陣を語る杉本市長（10月6日市役所大会議室で）

市長選挙は五十日以内

構想について市長は「田園文化都市は永遠をつくるものだ。頭・身体・心をつくるためには食糧をつくり確保することだ。そのためには農業の振興を図り、その生産基盤である土地を守らなければならぬ。乱開発や都市化を防ぎ、良好な生活環境を守り育て、文化の振興を図る必要がある。田園文化都市とは、これらすべてがバランスのとれた都市ということで、これはまた、永遠の課題である」と力説し、積極的な「南国市の未来像づくり」に取り組んでいまし

そして、最後に「静かに身をひいて一市民として南国市のために尽したい。市議選も終り、新しい市長をむかえて田園文化都市としての誇り高い市を創造してほしい」と、結んでいます。

市長の決意はかたく、この広報が市民の手にとどくころには「市長選挙」。がからみ、「市長不信任や金剛に例のない市長退陣・市議選直前の不信任可決」など、異例づくめの市政は、ますます波乱をよぶものと思われます。

なお、市長選挙は、杉本市長が

自動的に職を失う十月十一日の翌日から五日以内に市長職務代理者が選舉管理委員会へ「市長失職」を申し出た日から五十日以内に行われるになります。